

セッション	A.統語論 (2014.3.22 於 北京日本学研究中心)
タイトル	動詞否定文の否定のスコープに関する中日対照研究
著者名(所属)	仇 虹 (北京日本学研究中心博士課程院生)
連絡先 Eメール	qihongkyu@163.com

## 論文内容

(背景および研究目的)

中日の動詞否定文、特に構造の複雑な文や述語が二つの動詞である文（以下は中国語の言い方で連動文という）は問題が多い。例えば、

- (1) 你不用自己的钱买东西。
- (2) 制服を着て学校へ来なかった。

このような例は、理論的には否定辞はどの動詞にでも付属して現れる可能性があるが、使用上はどの否定形式をとるか、否定辞のスコープはどこに及ぶかなどのような問題がある。このような問題は母国語教育ではほとんど扱われていないが、外国語教育では無視できない重要事項となる。従来否定のスコープについて多角的に研究されてきたが、対照研究が少なく、連動文の否定についてはまだ十分に考察されていない。そこで、本研究は中日対照の角度から動詞否定文の否定のスコープの異同点を解明することを目的とする。

(検討方法等)

本研究では、否定のスコープが文レベルの問題であるという工藤氏（2000）の説を認めた上で、北京大学中国言語学研究センターの CCL コーパスと現代日本語書き言葉均衡コーパスを利用して例文を収集し、基本的な動詞否定文と連動文の否定においては否定のスコープはどこに及ぶか、文法機能と意味の点から考察してみる。

(考察)

動詞否定文の否定のスコープは多義性と曖昧性の特徴をもっている。主語と一つの動詞からなる「S+V」形式の否定文においては、無標の場合、中国語の「S+Neg+V」は直後スコープ、日本語の「S+V+Neg」は直前スコープであるが、両方とも動詞否定になる。修飾成分がある複雑な構造の文においては動詞を中心としてそれを直接に修飾する部分もよく否定のスコープに入る。連動文の否定においては、中国語の「S+Neg+VP1+VP2」は直後スコープ、後方移動スコープ、全体スコープという三つのタイプがあるが、それに対して、日本語の「S+VP1+テ+VP2+Neg」は主に直前スコープ、前方移動スコープ、全体スコープという三つのタイプがある。また、「～てたまらない」「～てならない」などのような定着した慣用表現は形式上連動文の特徴をもちながら、意味上後項の否定は前項の意味を強める役割をはたす。

(結論)

本研究では、動詞否定文の中日対照考察を通して次のようなことをあきらかにした。動詞否定文においては、中国語の場合は直前スコープ、日本語の場合は直後スコープが多いということは言葉の隣接原則が働いているためである。また、連動文の否定のタイプは前後両項の動詞句の密着度にかかわる。両項が並列関係の場合は一つの否定辞を含む形式にならない傾向がある。両言語とも方式・手段などを表す修飾の働きがある動詞句は否定されやすい。これは基本的な動詞否定文と通じるところだと言えよう。

## 参考文献

- 奥津敬一郎 (1989) 「とりたて詞とそのスコープ」 井上和子 (編) 『日本文法小事典』 大修館書店 p204-208  
 工藤真由美 (2000) 『彼は風邪くらいでは休まないよ』—否定のスコープと焦点『月刊言語』 11 p38-44  
 三上章 (1963) 『日本語の構文』 くろしお出版  
 刘永华 (2006) <连动结构否定表达的语义指向考察> 《语言与翻译》 1 p19-22  
 王华伟 (2005) <日语テ形进入否定辖域的复句> 《解放军外国语学院学报》 6 p32-36